

世界の森林ニュース

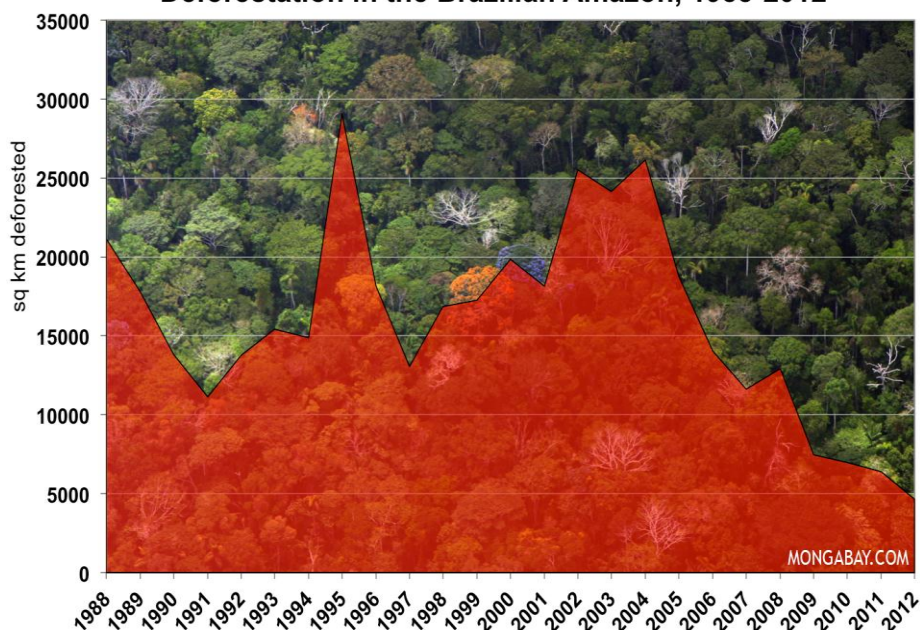
World Forest's News 2012年1月～8月 by 西岡

Topic * Amazon は大丈夫か? * Rio+20 会議は?

【森林破壊と気候変動がアマゾンの森の生態系回復力を弱める】

「森林破壊や森林悪化、気候変動の組み合わせが、アマゾンの熱帯林の生態系の回復力を弱めており、二酸化炭素の貯蔵力低下や、降雨パターン、河川流量の変化を招くおそれがある」とネイチャー誌に包括評価が掲載。国際的な研究者チームが、異常気象と気候変動などがアマゾンに与える影響に関する研究を精査した結果、アマゾンは回復力を備えているかもしれないが、火事や大規模伐採、森林破壊、国内外の気候変動などの相互に影響すると。(資料:2012年1/19 Mongabay.com)

Deforestation in the Brazilian Amazon, 1988-2012



【インドネシア、56億ドルのプランテーション企業を設立】

インドネシア政府は、総資産56億ドルの国有農園を合併して、3月に世界最大級のパーム油と天然ゴムの企業を創設する計画であると政府高官がロイターに語った。計画された上場の企業は、最近「投資適格」格付けを取得し、マレーシアのサイム・ダービーやシンガポールのウィルマー等と農園の競合相手となると。親会社はPT.プルクブナン・ヌサンタラⅢの傘下で、昨収入が40兆ルピア(44.5億ドル)に達した15の国有企業を政府は合併する。(2012年2/2 ロイター)

【スマトラ島でパーム油プランテーションをめぐる対立で5人撃たれる】

アブラヤシ農園をめぐる土地争いで、インドネシアのスマトラ島リアウ州で5人の村民が撃たれた、とジャカルタポストとレプブリカは報じた。事件が起きたのは、パーム油開発業者PTマズマ・アグロ・インドネシア(MAI)所有の重機が、地元住民が自分たちのものと主張する土地に入った時だった。200人もの村民は、民間警備員やインドネシア警察の特殊部隊、警察機動隊(Brimob)に護衛されたMAIの労働者を妨害しようと。2010-2011にかけてアブラヤシ農園開発の抗争で30名以上が死亡している。

(資料:2012年2/3 Mongabay.com や Sawit Watch より)

【インドネシア林業省、保護種ラミンを有する森林の伐採に同意】

活動家の Greenomics インドネシアが発表した資料によると、インドネシア林業省は、保護すべきラミン種を含むとされる森林区域で APP(アジアペーパーアンドパルプ)社のサプライヤーによる計画に同意したと。インドネシアにおいて林業プロジェクトが承認されるために必要とされるマイクロ製図書類は、APPのサプライヤーが木材・パルププランテーションに利用転換させていた。ラミンの違法伐採をザルキフィ林業相が認めたと。違法だ！

(資料:3.19 Mongabay より)

多国籍企業ダノン社、ゼロックス、Collins 出版社の3社がインドネシアの APP 社からの購入を中止か、一時停止と。だが APP はラミン保護すると。

(資料:2012年4/2gurdian、APPJapan)

【ベトナム政府が違法伐採の取締まりを発表】

「違法伐採は環境を損ねるだけでなく、長年の間当局にとって悩みの種であった。さらに、違法伐採はヨーロッパを含む世界中で、林業や林産企業に影響を与えている」と KMS バルティクスは報じている。

(1.10 Lesprom)

【タイ産のラバーウッド、EUの規制に直面】

タイのラバーウッド産業は、ラバーウッドの世界最大の輸出国のマレーシアに依頼し、EUと交渉へ加えてもらうことで、施行される欧州連合(EU)の木材規制に起因する輸出障害を解決しようとしている。タイ・パラウッド協会の会長は、新たな森林法施行・ガバナンス・EU-FLEGT(2013)が、EU市場において違法施業に関連した違法伐採木材及び木材製品の流入を禁止すると述べた。ITTO ではタイの合法材の紹介がされた。

(3.17 THE Nation や当会 ITTO 参加で)

【カンボジアの村人たちが製材企業を追及】

3月28日、カンボジアのカンポントム県プレイラン森林(PreyLangForest)のパトロールを実施している村人たちは、カンポントム県の製材所内で発見の600本のラバーウッドが違法伐採されたことを明かした。だが、政府はそれをただちに否定。

(資料:2012年3月フェアウッド News)

【パーム油に関する訴状にて、環境活動家とオラウータン側が敗訴】

絶滅の危機に瀕するオラウータン生息地の泥炭湿地の保護地域でアブラヤシ農園の操業許可に関する争いに、環境活動家の主張が裁判所によって棄却されたと SydneyMorningHerald と AcheGlobe が伝

えた。バンダアチエ裁判所は、訴えを起こしたWALHIは森林伐採をするアブラヤシ企業・PT Kallista Alamと和解するようにと、訴えを棄却した。
(2012年4/3 Mongabay.com)

【インドネシア環境省、APPとAPRILに違法伐採で訴える？】

インドネシア環境省は、スマトラ島リアウ県で違法伐採を行ったとして、22,500万ドルの損害賠償を請求につき14のパルプ企業を訴える準備を行っている、とTempoが報じた。14企業のうち12企業はAsia Pulp & Paper (APP)社とAPRIL社の関連企業。これらの2社は熱帯林破壊と絶滅危惧種のトラ、ゾウ、オラウータンの重要な生息地である泥炭地破壊を行っており、環境NGOから強く非難されている。
(資料2012年5/3 Mongabay.com)

【インドネシアで泥炭地を試験的に再び保護リストに】

インドネシア政府は5月21日、アブラヤシ開発の中心の1つであるアチエ県で、泥炭地を保全すると公表。森林劣化を食い止めるという国家の責任が試されている。森林劣化による排出を削減することを目標とするノルウェーとの10億ドルの温暖化防止の取引の下で、2年間の森林開発のモラトリアムを設置していた。しかし、西部に位置のアチエ県の前知事は、アブラヤシ企業に泥炭地開発を許可する等して禁止を撤回していた。
(資料: 5.21 ロイター通信)

【絶滅危機のインディオ・アワ族を救うキャンペーン！】

ブラジルで問題となっている違法な森林伐採の影響で、部族絶滅の危機にある先住民、アワ族を救おうと楽天らも呼びかけている。

英ガーディアン紙によると、アワ族は、ブラジル北東部の熱帯林地帯に暮らす先住民で、森とともに生きている。だが、ここでは急激な開発に伴う違法な森林伐採が深刻化し、既にこの地域の1/3の森が破壊されてしまったという。先住民族を援助する組織「サバイバル・インターナショナル」による報告だ。Rio+20会議を控え、昨年に世界3位になるペロモンテ・ダム建設を既にブラジル政府が認め、今年に入りインディオの多くが生活の危機と訴え、阻止への抗議も進めている。この時期に楽天が宣伝するのはえらい。
(参考資料2012年5/4 楽天Woman)

【Rio+20会議、「グリーン経済」等の内容で対立】

2012年6月13日から開催のリオ+20会議(地球サミット)は、内容の不明確な「グリーン経済」等を巡り、先進国・途上国含め意見対立し、閉会前6月20日、ブラジル政府が押切って「我々が望む未来」を採択。「グリーン経済」の理念を盛り込んだ「我々の望む未来」を採択したが、残念ながら実施の方向や具体的な目標等を欠き、ブラジルのインディオから「我々の望まない未来」とのメッセージが会場外の大きなデモから発せられた。先住民等がリオ市内で抗議のデモを繰り広げた。

今回、コロンビア等の意見も重視され、分野別では内容が進むものもあったが、気候変動問題・生物多様性関連・原発を含むエネルギー問題につき、多くの意見を聞かない状態で閉幕！アマゾンで最大の森林破壊が牧場開発であるが、大規模開発停止の文言も今サミットに盛り込まれず。今回の240以上の議案につき、森林関連は1項目から4項目となるが、ITTO理事会に比べ何も進行した議案が採択されなかった。牧場開発・アブラヤシ開発等の議論は無しで、本会議が予定より2日前に終了した。

日本のNGOsの代表役・JACSESの古澤広祐氏は、「20年を振り返ると、地球温暖化、森林減少が進

み、貧富の差も拡大。事態が深刻化もリーダーシップを発揮する存在がない」と指摘した。20 年前の Rio 会議は森林問題が論議されたが、「生物多様性条約」や「温暖化防止締約国会議」のようにまとまらなかったため、「森林原則」とのみになった。

当会・ウータンからは石崎が Rio+20 に参加し、アマゾン開発停止やボルネオ島の森林開発・アブラヤシ開発停止等を訴えたが…。(資料:毎日新聞、ロイター、サンパウロ新聞等)



(Rio+20 に抗議のインディオや NGO たち)

【国際警察と国連が連携し、森林犯罪に取り組む】

インターポールと国連は、国際的な森林犯罪対策を開始するため「プロジェクト・リーフ」とし、違法伐採と違法木材取引に関連犯罪を目標に取り組むと。インターポール環境問題責任者デビット氏は「違法伐採は各国内法に規制される問題でない」と。(資料:2012 年 6/8 BBC より)

【ベトナム、違法伐採が依然として森林を破壊し続ける】

ベトナムで、全国的規模の上半期 6 ヶ月間で 13700 件以上の森林保護法と木材管理法の違法例が報告された。(2012 年 7 月 12 日 VietNam News より)

【ギターのギブソン、木材の違法輸入で違反金】

米国米司法省は 8 月 6 日、ギター材料として絶滅危惧種の木材を違法に輸入した疑いがあり、ギター大メーカーのギブソン社は、訴訟を回避するために米当局に 35 万ドル(約 2700 万円)違反金と支払うことで合意と発表。米司法省モレノ次官補は声明で「ギブソン側は、購入していたマダガスカル産黒檀が過剰な伐採を促し、希少種保護の趣旨の法律に抵触する可能を認めた」と発言した。

(資料:2012 年 8/7 AFP)

【ノルウェー、キャンペーンでパーム油消費が 3 分の 2 に減少】

世界のパーム油 88%生産するインドネシア、マレーシアで熱帯林破壊の主要原因となる。ノルウェー向けのパーム油も 2 国で生産。同国の食品生産者は 2011 年に 1.5 万 t のパーム油を使用。そのため、圧力を結集させた NGOs・消費者団体のキャンペーンは、同国の消費を 2/3 減少と成功を報告。

(資料:フェアウッド News 8 月)

原文は(英語)

<http://www.regnskog.no/languages/english/norway-palm-oil-consumption-reduced-by-two-thirds>

【Lion 洗剤用、国際認証パーム油使用へ】

ライオンは 2012 年中に国際的な認証制度を運営組織「RSPO/持続可能なパーム油の円卓会議」認証したパーム油使用を開始した。商社経由で認証の油を購入し Lion ケミカル(墨田区)で加工。2015 年迄にパーム油を全て認証へ目標へ。
(資料: 日刊工業新聞 7/30)

【インドネシアの REDD の現状-問題多し】

6 月 3 日のジャカルタ・ポストは、ノルウェーとの協議で、【2 年間の天然林や泥炭地の新規伐採モラトリアム】が成功と見えたが、先行きは困難と報道。先月 5 月の 2 周年記念会合で、PIPIB(森林伐開の一時停止地域に関する地図)2 次補正を政府が発表し、92,245ha の天然林と泥炭地が保護地から除外され、保護地は 65,200 万 ha となるというが、。ノルウェー環境相は、「対策が緩められ、モラトリアムが作動していない恐れがあり、CO2削減目標をこのままでは満たせない」と発言。

(資料: 5/23, Mongabay.com; 6/3, Jakarta Post)

【インドネシアとマレーシアの森林伐採 2000～2010 年】

『Global Change Biology』の発表で、インドネシアとマレーシアが 2000 年から 2010 年間に 1100 万 ha 以上の森を失った。この面積はほぼデンマークの大きさになる。損失の大部分は平地林が 7,800 万 ha で、2000 年の森林被覆は 11%に減少したと。泥炭湿地林は 19.7%に減り、最も高い割合で失う。農園転換の以前は、平地林が伐採業者にターゲットにされ、泥炭湿地は産業用アブラヤシ農園やパルプ・紙のプランテーション地に変えられていると Mongabay が指摘している。

(資料: Mongabay.com. 7/15)

【サイム・ダービー社の CEO 汚職スキャンダル】

サイム・ダービー(Same Darby)社は車製造・アブラヤシ・不動産等のマレーシア最大の会社で、世界最大のパーム油コングロマリット。だがマレーシア政府により完全にコントロールされている。このため、7 月 2 週の本社前最高取締役が 100 万リンギットの業務上横領での逮捕及び訴訟で明らかにされた。サイム社が汚職に巻き込まれることには余り驚かないかも、との噂だ。
(資料: 7/19 Sarawakreport.org)

【インドネシア林業省、30 万 ha の森林の転換を認める造林の許可】

インドネシア林業省は、今年の時点で、30 万 ha 以上の森林を植林地へ転換する許可について発表した。林業省の森林地区ゾーニング局長トリ・ジョコ・ムルヨノ氏は、許可は今 342,709ha 出されており、2009 年の総数 490 万 ha、2010 年の 86 万 ha、2011 年の 366,259ha と比較した。「2010 年に許可の公布は徹底的に減り、森林地区の利用転換へのモラトリアムはほぼ停止寸前だったが、その翌年に再び許可の公布が増加した」と。本当か？
(2012 年 8/7 JakartaGlobe)